

登山・登攀の記録

京都山岳連盟カラコルムクラブ 1971年京都カラコルム遠征 マルビッティン峰(7453m)

日時:1971年4月11日～6月26日

メンバー:小山 貢(隊長)、城戸久隆(ドクター)、瀧野真二郎他7名

概要:カラコルム地域はパキスタン政府がインドとの紛争で入山を禁止していたが、6年ぶりの解禁第1号として、カラコルムクラブは、ヒマラヤのカラコルム山系にある未踏峰マルビッティン峰(7453m)の登山許可を得た。1969年の小山以下5名による調査隊の努力により許可を得られたものと考えます。

記録

4月11日、本隊出発。搭乗予定の飛行機が故障により到着せず、別便でマニラに到着。翌日の夕方マニラを出発し、カラチ経由で、14日夕方、ラワール・ピンディに到着。15日より外務省との交渉・手続などに手間取り、入山許可がなかなか下りず、27日にOKとなり、昼過ぎにピンディを出発し、午後3時、ギルギットに到着。陸送荷物の受け取り、ハイ・ポーター(HP)の雇用、HPへ装備の配布などを行い。30日、10台のジープに、荷物(約3000kg)と27名(隊員10人、リエゾン、ポリス2人、保険屋、ドクター、HP11人、ロー・ポーター1人)が分乗し、昼過ぎ、サシに到着。5月1日、荷物を、ロー・ポーター97人、ドンキー21匹にかつがせ、ダセ、イスケレと泊まり、3日の夕方、BCに到着。5日 快晴 登山活動開始、7日 快晴 C I 入り(瀧野)、10日 快晴 C II 入り、16日 快晴 瀧野 C II 入り、17日 快晴 小山C I 入り C III 入り(瀧野)、18日 晴 曇 小山C II 入り、24日 快晴 晴 曇 5時前に瀧野以下2名は、CIVへのルート偵察にC IIIを出発し、6時にトランシーバーをオープンすると、小山より「4人のHPがブロック雪崩に合い、2人が生存、2人が下へ滑落した」との連絡が入り、C IIIへ戻る。小山より「この遠征は中止」との連絡が入り、C IIIを撤収する。C IIで小山と逢い、C Iに午後1時前に到着。HP1名が死亡、1名が重傷。午後1時過ぎに城戸以下5名がC Iに到着。応急手当をした後、午後3時よりBCへ搬送を開始する。C I直下のきつい斜面を下ろしたところで息を引き取る。搬送を続行するが、雪は腐り、腰まで



時々落ち込む、悪戦苦闘して雪線まで下りる(午後4時半)。これより下はかなり急斜面の草地、ならびにガラ場などで危険なため、ここに遺体を安置し、午後7時前にBCに到着。翌日より、2遺体の収容、ならびにギルギットまでの搬送、C II・C Iの撤収などを行い。30日夜に逝去したHP2名とマルビッティン峰へのお別れ会を開き、31日、BCを発ち、ダセで泊まり、6月1日午後7時、ギルギットに到着。悪天のためフライトが無い日が多く、ラワール・ピンディへのフライトの予約が、なかなか確保できなく、ようやく11日午後3時にギルギットを出発し、午後4時、ピンディに到着。翌日より送り返す隊荷物の梱包、100Rs 紙幣が廃棄されるため、急きょギルギットで10日に銀行に預けた預け金の返還交渉、逝去したHP2名の保険金の受取などに手間取り、外務省の隊解散許可がなかなか下りず、28日に許可が下りることになり、瀧野は、26日深夜、皆と別れ、ラホール行きのバスに乗る。この後、インド・ネパール・スリランカ・シンガポール・香港経由で、7月15日帰国しました。

(記/瀧野)